

# 感染経路別予防策

感染経路別予防策とは、感染性病原体の感染経路遮断のために標準予防策に付加して実施する感染対策である。感染経路別予防策は空気予防策・飛沫予防策・接触予防策に分けられる。それぞれの病原体の感染経路を知り、その経路を遮断することによって、より効果的な感染対策が実施できる。

## 1. 空気感染予防策

空気感染とは、微生物を含む直径5μm以下の微小飛沫核が長時間空中を浮遊し、空気の流れによって広範囲に伝播される感染様式をいう。空気予防策とは、空気感染を起こす微生物に対して行う感染対策をさす。

### 1) 対象・感染対策

下記の病原体による感染疑い、あるいは検出された患者に対して実施する。

	【病室配置】	【移送】	【患者指導】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレが設置されている個室に隔離する</li> <li>・病室のドアは常時閉め出入りは最小限とする</li> </ul>	移送先の部署には、事前に感染対策に関連する患者情報を連絡する	
結核	空調圧調整必要 (結核の項参照)	感染管理に相談(結核の項参照)	咳をする時はタオル等を口に当て、飛沫を発生させないよう患者に協力を依頼する。
水痘	空調圧調整必要	患者にサージカルマスクを着用	
播種性帯状疱疹	空調圧調整不要		
麻疹	個室陰圧装置を使用		

- ・ 退院後の病室は、窓とドアを閉鎖したまま 2 時間以上換気し、その後通常の清掃を行う
- ・ 感染性を有する時期は室外に出ることは原則できない
- ・ 小児など抵抗力の弱い面会者の面会は基本的に制限する。面会者が病室に入室する際もN95 マスクを着用するよう依頼し、装着方法を実技指導する

**(3) 患者接触時のN95 マスクの着用**

装着方法はマニュアル 1-c-6「個人防護具の使用」参照

水痘	・水痘抗体を有する職員が優先して対応する場合不要
播種性帯状疱疹	・やむを得ず免疫を持たない職員が対応する場合は着用
結核	・全ての医療者が着用
麻疹	・麻しん抗体の有無にかかわらず全ての医療者が着用

- ・ 結核患者の発生頻度の高い部署は、フィットテストを行い自分の顔面にフィットする装着方法を習得しておく(フィットテスト希望者は感染管理担当課に依頼する)

**(4) 清掃、廃棄物の取り扱い**

- ・ 病原体が付着している布・紙類(ガーゼやティッシュ等)は、標準予防策に準じる。水痘、播種性帯状疱疹はマニュアル 31「小児ウイルス感染症」を参照。
- ・ 病室は通常清掃を行う。清掃業者も必要に応じてN95 マスクを着用し入室し、清掃する

**(5) その他の対策**

- ・ 聴診器や血圧計等を患者専用にする必要はないが、使用の都度清拭消毒する
- ・ 食器や残飯の消毒は不要であるが、委託職員は抗体価が未確認の為看護師配下膳とする
- ・ リネン、衣料品等の洗濯は、肺結核が確定した場合のみ感染症法により熱水洗濯を行う(マニュアル 1-j-1「環境対策」参照)。疑いの段階では熱水洗濯の必要はない。

## 2. 飛沫感染予防策

飛沫感染とは、咳、くしゃみ、会話、気管吸引および気管支鏡検査に伴って発生する飛沫が、経気道的に粘膜に付着し、これに含まれる病原体により経気道感染を起こす感染様式をさす。飛沫直径は5μmより大きいため、飛散する範囲は約2m以内である。病原性が高く、感染管理上重要な、飛沫感染を起こす微生物に対して行う感染対策を飛沫予防策という。病原体によっては乾燥表面に付着後も感染性を有する場合があるため、接触予防策の併用も必要である。

### 1) 対象患者・感染防止対策

下記の病原体による感染者(あるいは検出者)に対して実施する。

	【病室配置】	【移送】	【患者指導】
インフルエンザ	マニュアル 28「インフルエンザ」参照		
マイコプラズマ	・基本的に個室隔離 ・個室隔離が不可能な場合、同じ微生物による感染症患者を1つの病室に集めて収容(コホーティング) ・配置困難な場合は感染管理担当課へ相談 ・特殊な空調や換気システムは不要	感染性を有する時期は室外に出ることを可能な限り控える。やむを得ず室外に出るときは、サージカルマスクを着用してもらおう	・咳エチケット ・手指衛生
A群溶血性連鎖球菌(溶連菌) ※有効な治療開始後 24時間経過まで対策実施			
インフルエンザ菌や髄膜炎菌による髄膜炎 ※有効な治療開始後 24時間経過まで対策実施			
流行性耳下腺炎	マニュアル 31「小児ウイルス感染症」参照		
風疹			

- ・ 医療従事者は、患者病室に入室する前にサージカルマスクを着用し、その都度使い捨てる
- ・ 聴診器や血圧計等を患者専用にする必要はないが、使用の都度清拭消毒する
- ・ 食器や残飯、ゴミ、タオル、リネン類やカーテン類の洗濯方法は、通常通りでよい
- ・ 病室清掃は、日常清掃、退院時清掃とも通常の清掃でよいが、個人防護具着脱を正しく行い、手指衛生を徹底する
- ・ 飛沫や病原体が濃厚に付着しているものは感染性廃棄物として廃棄する

### 3. 接触感染予防策

接触感染とは、ヒト-ヒトの直接接触や患者使用物品・環境表面との間接接触などにより伝播する感染様式をさす。病原性が高く、感染管理上重要な接触感染を起こす微生物が適応となる。

#### 1) 適応患者

下記の病原体による感染者(あるいは検出者)に対して実施する。

- ・ 薬剤耐性菌検出患者(マニュアル 26「MRSA」27「耐性菌」参照)
- ・ 胃腸炎患者(マニュアル 29「感染性胃腸炎」参照)

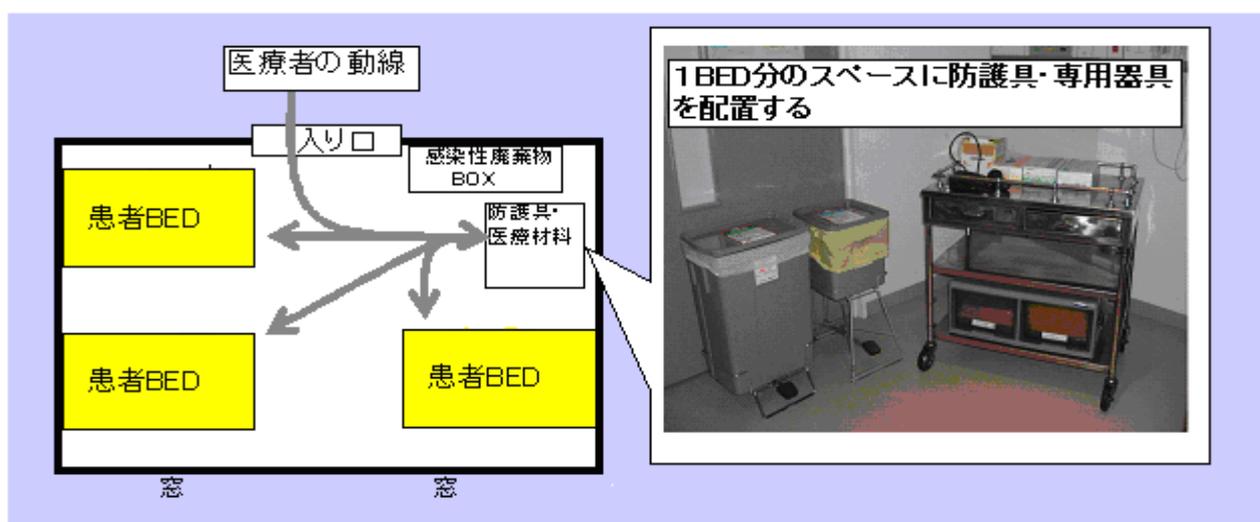
#### 2) 感染対策

##### (1) 病室配置・移送

- ・ 基本的には個室隔離が望ましい。
- ・ 個室隔離ができない場合は、同じ微生物による感染症患者を1つの病室に集めて収容する。
- ・ 個室隔離、コホーティングも不可能なケースについては、病原体の病原性や拡散リスク、同室患者の感染リスクなどを考慮し、多床室収容が可能かどうか検討する。
- ・ 個室隔離もコホーティングも不可能で判断に困った場合は、ICT、または感管理担当課に相談する。
- ・ 拡散リスクの高い患者の移送・病室外への出入りは最小限にする。室外へ出るときは、十分な手洗いが行われるように指導し、排菌部位の被覆に努める。

Ex：喀痰からの検出で咳がある場合→マスク着用

創からの検出→ドレッシングで密閉する、など



【図 1： 4床室でのコホートの一例】

## (2) 防護具の使用

- ・ 患者病室の入退室時には、手指衛生を徹底する
- ・ 排菌患者に直接接触する場合、病室環境に触れる場合はグローブ・ガウン・エプロンを着用する
- ・ 患者病室の退室時には、全ての防護具を脱ぎ廃棄する

## (3) 医療器具の専用化

- ・ 聴診器や血圧計などは患者専用にする。また使用後は病原体に有効な消毒剤で十分に清拭消毒する(「マニュアル 1-f-7」あるいは図2参照)。
- ・ ワゴンやカルテなど共有物を病室に持ち込まない
- ・ 下痢便で便座周囲に便が付着する可能性がある時は、トイレを専用化し、便座を毎回消毒する。(使用後の尿器・便器はマニュアル 1-f-7「標準予防策:医療器具の取り扱い」に準じて有効な濃度の消毒剤で消毒・処理をする)

## (4) 高頻度接触表面の消毒・清掃

- ・ 患者の手が高頻度に触れる部位(ベッド柵・床頭台・オーバーベッドテーブル・ドアノブ・ナースコール等)は、1日 1 回以上、清拭消毒する。テーブルは裏面など手の触る部分すべて清拭消毒する。
- ・ 消毒剤は、検出されている病原体に有効な消毒剤を選択する(「マニュアル 1-f-7」あるいは図2参照)。
- ・ 患者退室後も通常の退院時清掃に加え、高頻度接触表面の清拭消毒を行う
- ・ カーテンは患者の退床ごとに交換する

## (5) その他の対策

- ・ 食器や残飯は通常の処理でよい
- ・ 患者が使用したタオルやリネン類は、運搬の途中の環境汚染を防ぐため、病室内でビニール袋に密閉して室外へ運搬する
- ・ 湿性生体物質の付着しているゴミは、病室内に感染性廃棄物容器を設置し、病室内で密閉して運搬する
- ・ 湿性生体物質の付着していない患者周辺のゴミ(ペットボトルや紙くずなど)は、通常のゴミとして処理する

## (6) 患者指導

- ・ 面会者も含め、病室入退室時や湿性生体物質に手が汚染した場合に、手指衛生を行うよう依頼し、消毒方法を指導する

CLOSED

【図 2 消毒薬の選択】

表1 「個人防護具選択の基本的な考え方」

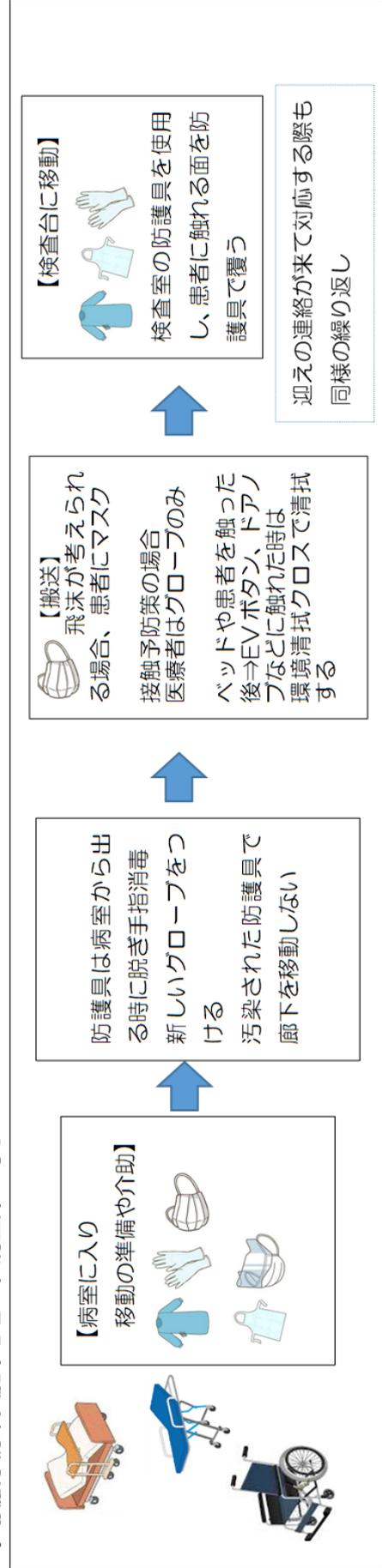
基本的考え方：「どこに汚染リスクがあるのか」と「拡散リスク」を考慮して防護具を選択する。

汚染リスクのあるケアの実施時に装着し、終了後は速やかに脱いで手指衛生を実施する。

1. 病室内の対応 ※マニュアル「1-C-7」『処置・ケアの場面別個人防護具の選択』も参考に、個人防護具を選択し組み合わせて使用する

	N95マスク	サージカルマスク	グローブ	エフロン	ガウン	シールド	キャップ
○必須 △必要時（リスク状況で選択する）							
①空気予防策実施中の病室に入る時 ・空气中に病原体があり、吸い込むことで感染リスクがあると考え	○						
②飛沫予防策実施中の病室に入る時 ・患者からの飛沫に病原体があり、飛沫が粘膜に付着することで感染リスクがあると考え		○				△	
③接触予防策実施中の病室に入る時 ・患者の検出材料に病原体があり、検出材料・検出部位を触ることで感染リスクがあると考え ・患者周辺の環境や医療機器にも病原体があると考え		△	○	△	△	△	△
リスク大	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     リスクの考え方は P26-3 「MPSA 拡散リスク」 を参照                 </div>						
リスク小	例：湿性生体物質に曝露する環境への汚染が強い 感染性が高い（排菌量が多い、感染力が強い） 例：湿性生体物質に曝露しない環境への汚染が少ない						

2. 接触予防策実施中患者の、病室外の対応



【表 2:感染症と状態に推奨される予防策の種類と期間】

標準＝標準予防策  
 空気＝空気予防策  
 飛沫＝飛沫予防策  
 接触＝接触予防策

感染症/病原体/状態	予防策	
	種類	期間
アクチノミセス症 Actinomycosis	標準	
アスペルギルス症 Aspergillosis	標準	
圧迫潰瘍(褥瘡性潰瘍, 圧迫痛)感染症 Pressure ulcer (decubitus ulcer, pressure)infected		
大きい病変 Major	接触	罹患期間中
小さい病変 Minor or limited	標準	
アデノウイルス感染症 Adenovirus	飛沫 接触	罹患期間中
アメーバ症 Amebiasis	標準	
RS ウイルス感染 Respiratory syncytial virus infection 幼児, 年少小児, 免疫不全成人	接触	罹患期間中

あ

い

胃腸炎 Gastroenteritis	標準*1	
アデノウイルス Adenovirus	標準*1	
ウイルス性(他の箇所カバーされていなければ)	標準*1	
エルシニア・エンテロコリチカ Yersinia enterocolitica	標準*1	
キャンピロバクター属 Campylobacter spp.	標準*1	
クリプトスポリジウム属 Cryptosporidium spp.	標準*1	
クロストリディオイデス(クロストリジウム)・ディフィシル Clostridioides(Clostridium) difficile	接触	罹患期間中
コレラ Vibrio cholerae	標準*1	
サルモネラ属 Salmonella spp. (チフス菌 S.Typhi を含む)	標準*1	
シゲラ属 Shigella spp. (細菌性赤痢)	標準*1	
ジアルジア・ランブリア Giardia lamblia	標準*1	
大腸菌 Escherichia coli		
腸管出血性 Enterohemorrhagic 0157 : H7 及び志賀毒素産生株	標準*1	
ノロウイルス Norovirus	標準*1	
ロタウイルス Rotavirus	接触	罹患期間中
インフルエンザ Influenzae		
ヒトインフルエンザ(季節性インフルエンザ) Human(Seasonal influenzae)	飛沫	5 日間 (免疫不全者での罹患期間を除く)
トリインフルエンザ(H5N1, H7, H9 株など)Avian(e. g. H5N1, H7, H9)		
パンデミックインフルエンザ(ヒトインフルエンザウイルスも)Pandemic infuruenzae(also a human infuruenzae virus)	飛沫 接触	症状発現から 5 日間
インフルエンザ菌 Haemophilus infuruenzae ⇒疾患特異的な勧告を参照		

\*1 おむつまたは便失禁の人々では罹患期間中は接触予防策を実施する。  
 施設での集団感染の制御にも接触予防策を実施する。

う

ウイルス性呼吸器疾患(他の箇所でカバーされない場合) Viral respiratory diseases(Not covered elsewhere)		
成人	標準	
幼児または小児⇒「呼吸器感染症 急性」を参照		
ウイルス性出血熱(ラッサ Lassa fever, エボラ Ebola, マールブルグ Marburg, クリミアコンゴ熱ウイルス Crimean-Congo fever virus による)	標準 飛沫 接触	罹患期間中

え

HIV 感染 HIV infection	標準	
エキノコックス症 Echinococcosis	標準	
エコーウイルス Echovirus ⇒「腸管ウイルス感染」参照		
壊死性腸炎 Necrotizing enterocolitis	標準	
壊疽 Gangrene(ガス壊疽 Gas gangrene)	標準	
エプスタイン・バーウイルス感染 Epstein - Barrvirus infection(伝染性単核症を含む)	標準	
エボラウイルス出血熱 「ウイルス出血熱」を参照		
エルシニア胃腸炎 Yersinia enterocolitica Gastroenteritis ⇒「胃腸炎」参照		

お

オウム病 Psittacosis(鳥類病 ornithosis) オウム病クラミドフィラ	標準	
---	----	--

か

回帰熱 Relapsing fever	標準	
疥癬 Scabies	接触	24 時間経過 まで
回虫症 Ascariasis	標準	
川崎病 Kawasaki disease	標準	
肝炎ウイルス Viral hepatitis		
A 型	標準	
おむつあるいは失禁状態	接触	
B 型(HBs 抗原陽性)：急性および慢性	標準	
C 型と他の特定されていない非 A 非 B 型	標準	
D 型(B 型肝炎ウイルスの合併感染のみにみられる)	標準	
E 型	標準	
G 型	標準	
カンジダ症 Candidiasis(皮膚粘膜型を含むすべての型)	標準	
感染性海綿状脳症 Transmissible spongiform encephalopathy ⇒「クロイツフェルトヤコブ病 CJD, v CDJ」参照		

き

Q熱 Q fever	標準	
キャンピロバクター Campylobacter 胃腸炎⇒「胃腸炎」参照		
狂犬病 Rabies	標準	
蟻虫症 Enterobiasis (pinworm disease, oxyuriasis)	標準	
ギランバレー症候群 Guillain - Barre syndrome	標準	

く

クラミジア・トラコマティス Chlamydia trachomatis		
結膜	標準	
性器(性病性リンパ肉下種)	標準	
呼吸器(生後3か月未満の乳児)	標準	
クラミドフィラ・ニューモニエ Chlamydomphila pneumoniae	標準	
クリプトコッカス症 Cryptococcosis	標準	
クリプトスポリジオーシス Cryptosporidiosis ⇒「胃腸炎」参照		
クリミアコンゴ熱ウイルス Crimean-Congofever virus ⇒「ウイルス性出血熱」参照		
クループ Croup ⇒乳幼児では「呼吸器感染症」参照		
クロイツフェルトヤコブ病 CJD, vCDJ Creutzfeldt - Jakob disease	標準	
クロストリジウム属 Clostridium		
ウエルシユ属 C. perfringens		
ガス壊疽 Gas gangrene	標準	
食中毒 Food poisoning	標準	
クロストリディオイデス(クロストリジウム)ディフィシル Clostridioides(Clostridium) difficile ⇒「胃腸炎-クロストリディオイデス・ディフィシル」参照		
ボツリヌス菌 C. botulinum	標準	

け

結核 Tuberculosis		
肺または喉頭疾患, 確定	空気	
肺または喉頭疾患, 疑い	空気	
肺外, 排膿病変はない, 髄膜炎	標準	
肺外, 排膿病変	空気 接触	
現在排膿病変はないが皮膚テスト陽性	標準	
結膜炎 Conjunctivitis		
クラミジア Chlamydia	標準	
急性ウイルス性 Acute viral (急性出血性 Acute hemorrhagic)	接触	罹患期間中
急性細菌性 Acute bacterial	標準	
淋菌性 Gonococcal	標準	
下痢、急性感染性が疑われる⇒「胃腸炎」参照		

こ

呼吸器感染症 Respiratory infectious disease, 急性 (他の箇所カバーされていない場合)		
成人	標準	
乳幼児	接触	罹患期間中
抗菌薬関連大腸炎 Antibiotic - associated colitis ⇒「クロストリディオイデス・ディフィシル」参照		
鉤虫症 Hookworm disease (ancylostomiasis, uncinariasis)	標準	
喉頭蓋炎 Epiglottitis インフルエンザ菌 Haemophilus influenzae による	飛沫	24 時間経過まで
コクシジオイデス症 Coccidioidomycosis (溪谷症 valley fever)		
肺炎	標準	
排膿病変	標準	
コックサッキーウイルス Coxsackievirus ⇒「腸管ウイルス感染」参照		
コレラ Cholera⇒「胃腸炎」参照		
コロラドダニ熱 Colorado tick fever	標準	
コロナウイルス Corona virus SARS に関連したコロナウイルス (SARS CoV) ⇒「重症急性呼吸器症候群」参照		
MARS に関連したコロナウイルス (MARS CoV) ⇒「中東呼吸器症候群」参照		

さ

細気管支炎 Bronchiolitis⇒乳幼児では「呼吸器感染症」参照	接触	罹患期間中
細菌性赤痢 Shigellosis⇒「胃腸炎」参照		
サイトメガロウイルス Cytomegalovirus 感染、新生児または免疫不全者	標準	
サル痘 Monkeypox	空気接触	空気(サル痘が確定され天然痘が除外されるまで) 接触(病変痂皮化まで)
サルモネラ症 Salmonellosis ⇒「胃腸炎」を参照		
塹壕性口腔炎 Trench mouth (ワンサン・アンギーナ Vincent's angina)		

し

シアルジア鞭毛虫症 Giardiasis⇒「胃腸炎」参照		
子宮内膜症 Endometritis	標準	
ジフテリア Diphtheria		
喉頭	飛沫	培養陰性化まで
皮膚	接触	
重症急性呼吸器症候群 Severe acute respiratory syndrome (SARS)	空気 飛沫 接触	罹患期間に加えて、呼吸器症状が見られないか改善していれば発熱が改善してから10日間をプラスする
種痘疹 Vaccinia(接触部位 Vaccination site, ワクチン接種に引き続く副反応 adverse events following Vaccination)		
接触部位のケア Vaccination site care (自家接触部位を含む including auto inoculated Areas)	標準	
種痘性湿疹 Eczema vaccinatum	接触	
致死的種痘疹 Fatal vaccinia	接触	
全身性種痘疹 Generalized vaccinia	接触	
進行性種痘疹 Progressive vaccinia	接触	
接種後脳炎 Postvaccinal encephalitis	標準	
眼瞼炎または結膜炎 Blepharitis or conjunctivitis	標準 接触 (大量排膿の場合)	
虹彩炎または角膜炎 Iritis or keratitis	標準	
種痘疹関連多形成後半 (スティーヴンズジョンソン症候群) (Stevens Johnson Syndrome) Vaccinia-associated erythema multiforme	標準	
住血吸虫病 Schistosomiasis(ビルハルツ吸虫病 bilharziasis)	標準	
条虫病 Tapeworm disease		
有鉤条虫 Taenia solium(pork)	標準	
小型条虫 Hymenolepsis nana	標準	
その他	標準	
褥創性潰瘍 Decubitus ulcer⇒「圧迫潰瘍」参照		
小児バラ疹 Roseola infantum (exanthemsubitum:HHV-6によって引き起こされる)	標準	
食中毒 Food Poisoning		
ウエルシュ菌 Clostridium perfringens または Welchii	標準	
ブドウ球菌性 Staphyococcal	標準	
ボツリヌス中毒 Botulism	標準	
虱症 Pediculosis		
頭部	接触	★ 24時間経過まで
体幹	標準	
陰部	標準	

す

水痘 Chickenpox	空気接触		病変が乾燥し痂皮化するまで
髄膜炎 Meningitis			
インフルエンザ菌 Hemophilus influenzae タイプ B, 確定または疑い	飛沫	★	24 時間経過まで
結核菌 M. Tuberculosis	標準		
細菌性、グラム陰性、新生児	標準		
真菌性	標準		
髄膜炎菌 Neisseria meningitidis 確定または疑い	飛沫	★	24 時間経過まで
肺炎球菌性 Pneumococcal			
無菌性(非細菌性またはウイルス性)	標準		
リステリア菌 Listeria monocytogenes	標準		
他の同定された細菌	標準		
髄膜炎菌 Meningococcal disease	飛沫		24 時間経過まで
敗血症 Meningococemia (Meningococcal sepsis)			
肺炎 Meningococcal pneumonia, 髄膜炎 Meningitis			
スポロトリクス症 Sporotrichosis	標準		

せ

性病性リンパ肉芽腫 Lymphogranuloma venereum	標準		
せつ黄色ブドウ球菌性 Furunculosis staphylococcal	標準		
幼児および年少小児	接触		罹患期間中
節足動物媒介ウイルス性脳炎 Arthropodborne viral encephalotodes(東、西、ベネズエラ馬脳脊髄炎, セントリス・カリフォルニア脳炎 eastern, western, Venezuelan equine encephalomyelitis, ウエストナイルウイルス West Nile Virus) およびウイルス熱 Arthropodborne viral fevers(デング熱 dengue fever, 黄熱 yellow fever, コロラドダニ熱 Colorado tick fever)	標準		
接合真菌症 Zygomycosis	標準		
先天性風疹 Congenital rubella	接触		1 歳になるまで
旋毛虫病 Trichinosis	標準		

そ

創部感染 Wound infection			
大きい	接触		罹患期間中
局部, 限定	標準		
鼠径肉芽腫 Granuloma inguinale	標準		
鼠咬症 Rat-bite fever	標準		

た

帯状疱疹 Zoster(Varicella - zoster) 全ての患者において、播種性病変が見られる場合 免疫不全者において、限局性病変が見られる場合 (播種性病変が除外されるまで)	空気 接触	病変が乾いて痂皮化するまで
免疫システムが正常な患者において、限局性病変 (病変が覆われている)がある場合	標準	
大腸菌性胃腸炎 Escherichia coli Gastroenteritis ⇒「胃腸炎」参照		
多剤耐性菌 Multidrug - resistant organism(MDRO)発症 または保菌(MRSA, VRE, VISA/VRSA, ESBL, CRE, 耐性肺炎球菌など)	標準 接触	
単純ヘルペス Herpes simplex		
新生児 脳炎	接触	病変が乾いて痂皮化するまで
肺炎	標準	
皮膚粘膜、再発性(皮膚、口、性器)	標準	
皮膚粘膜、播種または原発性、重症	接触	病変が乾いて痂皮化するまで
炭疽病 Anthrax		
肺	標準	
皮膚	標準	
環境：エアロゾル化する芽胞を含んだ粉末やそのほかの物質		

ち

中東呼吸器感染症 Middle East respiratory syndrome(MERS)	飛沫 接触	
腸炎 Enterocolitis, クロストリディオイデス(クロストリジウム)デ ィフィシル Clostridioides(Clostridium) difficile ⇒「胃腸炎クロストリディオイデスディフィシル」参照		
腸炎ビブリオ Vibrio parahaemolyticus⇒「胃腸炎」参照		
腸管ウイルス感染 Enteroviral infections(A群およびB群コクサ ッキーウイルスおよびエコーウイルス)(ポリオウイルス以外)	標準	
腸球菌属菌 Enterococcus spp(⇒疫学的に重大またはバンコマイシン 耐性ならば「多剤耐性菌」参照		
腸チフス(チフス菌) Typhoid(Salmonella Typhi)fever ⇒「胃腸炎」参照		

て

手足口病 hand, foot, and mouth disease ⇒「腸管ウイルス感染 Enteroviral Infection」参照		
デング熱 Dengue	標準	
伝染性紅斑 Erythema infectiosum ⇒「パルボウイルス B19」参照		
伝染性単核症 Infectious mononucleosis	標準	
伝染性軟属腫 Molluscum contagiosum	標準	
伝染性脳痲疫 Orf(オルフウイルス orf virus)	標準	
天然痘 Smallpox(Variola) ⇒ワクチン接種された人々の管理には「種痘疹」参照	空気 接触	罹患期間中

と

トキシックショック症候群 Toxic shock syndrome (ブドウ球菌疾患, 連鎖球菌疾患 staphylococcal disease)	標準	
トキソプラズマ症 Toxoplasmosis	標準	
トラコーマ, 急性 Trachoma, acute	標準	
トリコモナス症 Trichomoniasis	標準	
鳥インフルエンザ Avian influenza ⇒「インフルエンザ-トリインフルエンザ」参照		

な

軟性下疳 Chancroid	標準	
----------------	----	--

に

尿路感染 Urinary tract infection (腎盂腎炎 pyelonephritis を含む) 尿カテーテルあり, またはなし	標準	
二次性細菌感染(黄色ブドウ球菌、A群β溶血連鎖球菌)	標準 接触	

ね

猫ひっかき病 Catscratch fever(良性接種性リンパ細網症 Benign inoculation lymphoreticulosis)	標準	
熱傷皮膚症候群 Scaled skin syndrome, ブドウ球菌性 staphylococcal	接触	

の

膿痂疹 Impetigo	接触	★	24 時間経過 まで
脳炎もしくは脳脊髄膜炎 Encephalitis or encephalomyelitis (⇒それぞれの起因菌を参照)			
膿瘍 Abscess			
排膿, 大量	接触		
排膿, 少量または眼	標準		
ノカルジア症 Nocardiosis, 排膿病変もしくは他の症状			
ノロウイルス胃腸炎 Norovirus gastroenteritis⇒「胃腸炎」参照			

は

肺炎 Pneumonia			
アデノウイルス Adenovirus			
インフルエンザ菌 Haemophilus influenzae タイプ B			
成人	標準		
幼児と小児(どの年齢も)	飛沫		24 時間経過まで
ウイルス			
成人			
幼児と子供⇒「呼吸器感染症 急性,特定のウイルス」参照			
クラミジア Chlamydia	標準		
水痘-帯状疱疹ウイルス Varicella-zoster⇒「水痘」参照			
ブルクホルデリア・セパチア Burkholderia cepacia			
嚢胞性線維症の患者・気道への定着を含む	接触		不明
嚢胞性線維症のない患者⇒「多剤耐性菌」参照			
ニューモシスティス・イロベジ Pneumocystis jirovecii (ニューモシスティスカリニ Pneumocystis carinii)	標準*2		
A型連鎖菌 Streptococcus Group A			
成人	飛沫	★	24 時間経過まで
幼児と年少小児	飛沫	★	24 時間経過まで
黄色ブドウ球菌 Staphylococcus aureus	飛沫		24 時間経過まで
真菌	標準		
髄膜炎菌性 Meningococcal	飛沫	★	24 時間経過まで
肺炎球菌性 Pneumococcal	標準		
多剤耐性⇒「多剤耐性菌」参照			
マイコプラズマ Mycoplasma(原発性非定型肺炎)	飛沫		罹患期間中
レジオネラ属 Legionella	標準		
他に列挙されていない細菌(グラム陰性菌を含む)	標準		
梅毒 Syphilis			
潜在性、梅毒反応陽性で無症状	標準		
白癬 ringworm(皮膚糸状菌症 dermatophytosis, 皮膚真菌症 dermatomycosis, 白癬 tinea)	標準		
破傷風 Tetanus	標準		
バベジア症 Babesiosis	標準		
パラインフルエンザ感染症 Parainfluenza virus infection, 幼児と年少小児の呼吸器	接触		罹患期間中
パルボウイルス B19(伝染性紅斑) Parvovirus B19	飛沫		
ハンタウイルス肺症候群	標準		
ハンセン病⇒「らい病」参照			

\*2 免疫不全者で慢性疾患が発生した時は、入院患者は予防策を継続する。  
妊婦との同室は避ける。

ひ

非結核性抗酸菌		
肺	標準	
創部	標準	
ヒストプラズマ症 Histoplasmosis	標準	
ヒトメタロニューモウイルス Human metapneumovirus	接触	罹患期間中
ビブリオ・パラヘモリティクス <i>Vibrio parahaemolyticus</i> ⇒「胃腸炎」参照		
百日咳 Whooping cough(pertussis)	飛沫	5日経過まで

ふ

風疹 Rubella (German measles)⇒先天性風疹も参照	飛沫	発疹が始まった後7日経過まで
ブドウ球菌疾患 Staphylococcal disease (黄色ブドウ球菌 <i>S. aureus</i> )		
皮膚、創部、熱傷		
大きい	接触	罹患期間中
小さい、または限局している	標準	
腸炎	標準	
多剤耐性⇒「多剤耐性菌」参照		
肺炎	標準	
熱傷様皮膚症候群	接触	罹患期間中
トキシックショック症候群	標準	
ブラストミセス症 Blastomycosis (北アメリカ North American、皮膚 cutaneous、肺 pulmonariy)	標準	
プリオン病 Prion disease⇒「クロイツフェルトヤコブ病」参照		
ブルセラ病 Brucellosis (波状熱 undulant、マルタ熱 Malta、地中海熱 Mediterranean fever)	標準	
糞線虫症 Strongyloidiasis	標準	

へ

閉鎖腔感染症 Closed-cavity infection		
開放ドレーンが留置され、肺膿が限局性または少量である	標準	
排膿がないか、閉鎖式ドレーンシステムが留置されている	標準	
ペスト Plague		
腺ペスト Bubonic	標準	
肺ペスト Pneumonic	飛沫	
ヘモフィルス・インフルエンザ <i>Haemophilus influenzae</i> ⇒疾患特異的な勧告を参照		
ヘルパンギーナ Herpangina⇒「腸管ウイルス感染」参照		
鞭毛虫病 Trichuriasis(whipworm disease)	標準	

ほ

蜂巣炎 Cellulitis	標準	
胞虫症 Cysticercosis	標準	
ボツリヌス中毒 Botulism	標準	
発疹チフス Typhus		
発疹チフスリケッチャ <i>Rickettsia prowazekii</i> (流行性またはシラミ発疹チフス Epidemic or Louse-borne typhus)	標準	
発疹熱リケッチャ <i>Rickettsia typhus</i>	標準	
ポリオ(灰白髄炎) Poliomyelitis	接触	罹患期間中

ま

マイコプラズマ肺炎 Mycoplasma pneumonia	飛沫	罹患期間中
麻疹 Measles, すべての症状	空気	発疹が出てから4日間、免疫不全者では罹患期間中
マラリア Malaria	標準	
マールブルグ病 Marburg virus disease ⇒「ウイルス性出血熱」参照		

む

ムコール症 Mucormycosis	標準	
ムンプス Mumps(流行性耳下腺炎 infectious parotitis)	飛沫	★ 9日経過まで

や

野兔病 Tularemia		
肺	標準	
排膿病変	標準	

ら

ライ症候群 Reye's syndrome	標準	
らい病 Leprosy	標準	
ライノウイルス Rhinovirus	飛沫	罹患期間中
ライム病 Lyme disease	標準	
ラッサ熱 Lassa fever⇒「ウイルス性出血熱」参照		
ランブル鞭毛虫症⇒「胃腸炎」参照		

り

リウマチ熱 Rheumatic fever	標準	
リケッチア痘瘡 Rickettsial pox (小胞性リケッチア症 vesicular rickettsiosis)	標準	
リケッチア熱 Rickettsial fever, ダニ伝播	標準	
リケッチア熱 ダニ伝播 (ロッキー山紅斑熱, 発疹チフス)		
リステリア症 Listeria monocytogenes(リステリア菌)	標準	
リッター病 Ritter's disease(ブドウ球菌性熱傷皮膚症候群 staphylococcal scalded skin syndrome)⇒「ブドウ球菌疾患, 熱傷様皮膚症候群」参照		
淋菌性新生児眼炎 Gonococcal ophthalmia neonatorum (淋菌性眼炎 gonorrhoeal ophthalmia, 新生児の急性結膜炎 acute conjunctivitis of newborn)	標準	
リンパ球性脈絡髄膜炎 Lymphocytic choriomeningitis	標準	
淋病 gonorrhoea	標準	

る

類鼻疽 Melioidosis すべての型	標準	
-----------------------	----	--

れ

レジオネラ症 Legionellosis	標準		
レプトスピラ症 Leptospirosis	標準		
連鎖球菌疾患 Streptococcal disease A型溶連菌 group A Streptococcus			
皮膚、創傷、熱傷 skin, wound, durn			
大きい	接触	★	24時間経過まで
小さい、または限局している	標準		
子宮内膜炎(産褥性敗血症)	標準		
幼児および年少小児での咽頭炎	飛沫	★	24時間経過まで
幼児および年少小児での猩紅熱	飛沫	★	24時間経過まで
肺炎 Pneumonia	飛沫	★	24時間経過まで
重症侵襲性疾患 Serious invasive disease	飛沫	★	24時間経過まで
連鎖球菌疾患(B群連鎖球菌)新生児 Streptococcal disease (Group B Streptococcus neonatal)	標準		
連鎖球菌疾患(A群でも B群でもない)他にリストされていない Streptococcal disease(not group A or B)unless covered elsewhere	標準		
多剤耐性菌 Multidrug - resistant⇒「多剤耐性菌」参照			

ろ

ロタウイルス感染 Rotavirus infection⇒「胃腸炎」参照			
ロッキー山紅斑熱 Rocky Mountain spotted fever	標準		

わ

ワンサン・アンギーナ Vincent's angina (trench mouth) ⇒「塹壕性口腔炎」参照	標準		
---	----	--	--

- ★ 効果的な治療（抗菌薬投与により症状改善が図られている）の開始後  
時間（h）で規定された期間が経過するまで